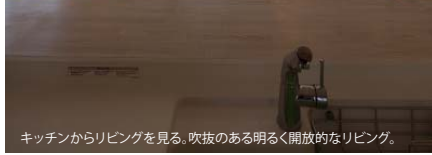


特集 「秋田県横手市「ぬくもりの我が家」」



キッチンからリビングを見る。吹抜のある明るく開放的なリビング。



リビングからダイニング・キッチン方向を見返す。左手に和室。



ダイニング、キッチンの床はFL-150としてテーブルと高さを揃える。



秋田県横手市郊外の、ご夫婦+子供2人のための住宅です。道路に面したガレージと住宅部分の2つのボリュームで構成されます。豪雪地域でありながら、あまり閉じた住宅とはせず、フォルムや色彩計画を含め、モダンでシャープというよりは、暖かてぬくもりのある雰囲気大切にしたいと思いました。

1階は主にパブリックなスペースと水回り、2階は個室のオーソドックスなプランニングとしています。1階リビング・ダイニングと一体に和室を設け、複数の水回りへのアクセスを設けることにより、家事も効率的なレイアウトとしています。キッチンFLは-150に設定し、ダイニングテーブルと高さの調整をしてより一体感を高めました。

2階は個室のスペースですが、吹抜上部のワークスペースは1階リビングと一体の家族のためのセミ・パブリックな空間となります。デスクや本棚を設えて、読書や執務に活用します。

積雪寒冷地であるため相応の断熱性能を確保した上で、燃料電池システム(エネファーム)や太陽光発電も備える省エネ住宅です。

※印を除き、撮影：GEN INOUE



ファサード。ガレージと2つのボリュームで構成されます。



吹抜に面した2階ワークスペース。



階段。暖かてぬくもりのある色彩計画。



エントランス。壁とルーバーによるコンポジション。

お知らせ

□名取市・仙台市で建築家展に参加します。

ASJ あぶくまスタジオイベント
未来へのぞく住宅展
イオンモール名取 イオンホール 1F
名取市杜せきのした5丁目3番地の1
7/14(土) 10:00~19:00 入場無料
7/15(日) 10:00~19:00 入場無料
7/16(月) 10:00~18:00 入場無料

ASJ 仙台青葉スタジオイベント
第27回未来へのぞく住宅展
パナソニックリビングショールーム仙台
宮城県仙台市青葉区本町二丁目4-6
仙台本町三井ビルディング 1F
7/21(土) 10:00~17:00 入場無料
7/22(日) 10:00~17:00 入場無料

開催地、およびその近郊の方、是非お出でいただき、お声を掛けてください。

詳しくはこちらをご覧ください。

MEDIA



住宅雑誌リプラン北海道版 2012 年夏月号に、青葉の Ud-House が掲載されました。「巻頭特集 Kitchen+」
"Kitchen+ ユニバーサル・デザイン 日々の暮らしの中での機能性を追求"とご紹介いただきました。



日本電気硝子広報誌 Glacia 創刊号に、Ks-House が掲載されました。
特集「家族をつなぐ。ガラスブロックがもたらす明るさで絆を深める空間づくり」
大開口のガラスブロックや螺旋階段など懐かしいデザインエレメンツを取り入れたリビング。光降りそそぐ吹き抜け空間が家族共有のワークスペースと、明るく開放的なつながりをもたらす、豊かなコミュニケーションを育める空間になっています。

スタッフの日常・非日常 vol.50



最近、現場にも行く時間が無く、図面書きに追われています。そんな中、先月ですが、仙台に行きました。SAU+展の設営のためです。仙台事務所も初めて見ました。外観だけ。せっかくなので、SAU+展の簡単なレポートでもしたいと思います。と言っても、設営だけしてすぐ帰ったのですが、この限られたスペースに書ききれないかなあ。



まず、「SAU」とは仙台の設計事務所の集まりのことです。それに秋田のウチと花田さんが「+」して「SAU+」(多分)。せんだいメディアテークの1Fオープンスクエア。広いです。そこに、各事務所がブースを設けて展示をします。カーテン生地で作ったテントが広場内にパラパラと集落のように配置され、各自自由にテントを形作って…あ、やつぶり書ききれない

今月のマテリアル



ハニカムサーモスクリーン

セイキ社の、窓に設置するスクリーンです。普通のロールスクリーンと違い高い断熱性能が特徴です。一枚布ではなく、厚さが35ミリもあり、蜂の巣のようにハニカム構造になっていて、内部の空気層が断熱効果を生んでいます。生地はポリエステル不織布で、耐久性・防腐蚀性に優れています。断熱性能を追求した「八戸のQ1住宅」で設置しました。

編集後記

皆様、こんにちは。7月中旬になりました。季節は早くも夏。お盆まであと1ヵ月ですか・・・なぜこんなにも月日が過ぎるのは早いのでしょうか(笑) さて、近頃、デジタル雑誌を買う機会が増えてきました。Fujisan.co.jp で買うのですが、30冊以上買ってます。やはり仕事に関連したものが多いのですが、「Pen」や「住まいの設計」などのライトな雑誌から、「新建築」や「住宅特集」など割とヘヴィな雑誌まで。よいところは、どこでも見られること。悪いところは、ネットにつながったPC等がなければ全く見られないこと。しかし、ライトな雑誌はまあいいとしても、資料価値の高いヘヴィな雑誌はデジタルで購入してもいいものか?とも思います。実際には雑誌という実物が無いわけですから。データがダウンロードできる訳でもなく、単にアップロードされているデータを閲覧する権利を買っているだけです。買った本なら何十年先でも見られますが、はたしてデジタル雑誌は数十年先でも見られるのでしょうか?毎週秋田～仙台を移動して仕事をする自分には、どこでも閲覧可能という大きなメリットはあるのですが・・・これからは買い続けていいものか・・・非常に迷うところでありました。

それでは次回もどうぞお楽しみに。



私の大きめのスマートフォンなのですが、スマホでも「新建築」が読めるんです。こういうのもなかなかのメリットなんですけどね。

Web Site

- Home トップページ
- Profile プロフィール
- Concept コンセプト
- Service 業務案内
- Works 設計事例
- Conference 無料相談

ニュースレター
「建築家の日常・非日常」
発行責任者：加藤 一成

株式会社 加藤一成建築設計事務所
TEL. 022-739-8931 018-831-4315
FAX. 022-739-8932 018-831-4316
HP. http://www.issei-design.com/
BLOG. http://www.issei-design.com/blog/
MAIL. info@issei-design.com